



Sun Fire™ X4170、X4270、および X4275 サーバー ご使用にあたって

Supplemental Release 1.3 および 2.0.1

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7819-11
2009 年 7 月, Revision A

このドキュメントに関するコメントを送付するには、<http://docs.sun.com> で Feedback[+] リンクをクリックします。

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的財産権を有しています。これら知的財産権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Solaris、および Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。

Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

Sun Fire X4170、X4270、および X4275サーバーご使用にあたって

このドキュメントでは、Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの最新の情報と問題について説明します。各問題は Sun Service 要員が参照する社内変更要求 (Change Request、CR) 番号と関連付けられています。Sun Service 要員は必要に応じて CR 番号を参照し、各問題の詳細を確認できます。

項目

説明	リンク
一般情報	<ul style="list-style-type: none">• 3 ページの「ソフトウェア Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 でサポートされているファームウェア」• 5 ページの「Sun のファームウェア更新」• 5 ページの「Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのドキュメント」• 6 ページの「Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの Tools and Drivers DVD」• 6 ページの「Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのサポートとパッチ」• 6 ページの「Sun 以外の Web サイト」
ハードウェアとソフトウェアの新機能	<ul style="list-style-type: none">• 7 ページの「ハードウェアとソフトウェアの新機能」

項目	リンク
解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none"> • 9 ページの「解決済みの問題」
既知の未解決問題	<ul style="list-style-type: none"> • 14 ページの「ハードウェアの既知の問題」 • 16 ページの「BIOS の既知の問題」 • 17 ページの「ILOM の既知の問題」 • 21 ページの「VMware の既知の問題」 • 25 ページの「Solaris および OpenSolaris の既知の問題」 • 29 ページの「Red Hat および SUSE Linux の既知の問題」 • 32 ページの「Windows の既知の問題」 • 36 ページの「Sun Installation Assistant の既知の問題」 • 38 ページの「ドキュメントの既知の問題」

一般情報

項目	
説明	リンク
サポートされているファームウェア	<ul style="list-style-type: none">3 ページの「ソフトウェア Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 でサポートされているファームウェア」
BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コードのバージョン	<ul style="list-style-type: none">5 ページの「BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コード」
ファームウェア更新のダウンロードサイト	<ul style="list-style-type: none">5 ページの「Sun のファームウェア更新」
最新の製品ドキュメントのダウンロードサイト	<ul style="list-style-type: none">5 ページの「Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのドキュメント」
Tools and Drivers DVD	<ul style="list-style-type: none">6 ページの「Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの Tools and Drivers DVD」
サポート情報	<ul style="list-style-type: none">6 ページの「Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのサポートとパッチ」
Sun 以外の Web サイト	<ul style="list-style-type: none">6 ページの「Sun 以外の Web サイト」

ソフトウェア Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 でサポートされているファームウェア

この更新には 2 つの Supplemental Release があり、ILOM 2.0 を実行しているサーバー用と ILOM 3.0 を実行しているサーバー用です。

- Supplemental Release 1.3 は、ILOM 2.0 を実行しているサーバー用です
- Supplemental Release 2.0.1 は、ILOM 3.0 を実行しているサーバー用です

表 1 はサポートされている ILOM および BIOS ファームウェアのバージョンを識別します。

表 1 Supplemental Release で用意されているサーバーファームウェアのバージョン

Supplemental Release のバージョン	ILOM SP ファームウェア のバージョン	BIOS ファームウェア のバージョン
2.0.1 (ILOM 3.0 を実行している システム用の最新の更新)	3.0.3.35.a	07.05.01.01
2.0	3.0.3.35	07.03.00.03
1.3 (ILOM 2.0 を実行している システム用の最新の更新)	2.0.2.19	07.04.40.02
1.2	2.0.2.17	07.02.39.01
1.0	2.0.2.9	07.01.38.03



注意 - ソフトウェアの古いバージョンへのダウングレードはサポートされています。ただし、Supplemental Release 1.2 より前のバージョンにダウングレードする場合は、システムのサービスプロセッサが動作しなくなる恐れがあり、解決には Sun Service への連絡が必要になります。

注 - サーバーを ILOM 2.0 から ILOM 3.0 にアップグレードする場合は、ILOM 2.0 から ILOM 3.0 の最新バージョンに直接アップグレードできます。ILOM 3.0 の中間バージョンにアップグレードする必要はありません。

BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コード

表 2 は、Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 用の BIOS ファームウェアイメージで使用されている Intel Microcode と参照コード のバージョンを一覧したものです。

表 2 Supplemental Release 1.3 および 2.0.1 用の BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コード

Intel ソフトウェア	バージョン
Intel CPU Microcode	SRV_C_81
Intel RC	1.05
Intel CPU 参照コード	1.02
Intel QuickPath Interconnect (QPI) 参照コード	1.05
Intel Memory Reference Code (MRC)	1.05

Sun のファームウェア更新

ILOM および BIOS の最新のファームウェアはサーバーにインストールされて出荷されます。このファームウェアを再インストールするか、更新を入手する必要がある場合は、次の URL からサーバー用のファームウェアを入手できます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4275/downloads.jsp>

Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのドキュメント

製品ドキュメントとサーバーのプロダクトノートの最新版は、次の Sun ドキュメント Web サイトで入手できます。

- <http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4170?l=ja>
- <http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4270?l=ja>
- <http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4275?l=ja>

Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの Tools and Drivers DVD

サーバーの Tools and Drivers DVD は注文品とともに出荷されます。この DVD には、デバイスドライバ、RAID 管理ソフトウェア、およびサーバーとともに使用するその他のソフトウェアユーティリティーが収録されています。この DVD のコピーか、収録されているソフトウェアの更新が必要な場合は、次の URL から最新の Tools and Drivers DVD をダウンロードできます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4275/downloads.jsp>

Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのサポートとパッチ

サーバーのサポート情報とパッチは次の URL にあります。

<http://sunsolve.sun.com>

Sun 以外の Web サイト

このドキュメントで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

ハードウェアとソフトウェアの新機能

この節では、Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのソフトウェアとハードウェアの次の新機能について示します。

項目	
説明	リンク
パフォーマンス拡張	<ul style="list-style-type: none">7 ページの「特定の DIMM 構成に対して拡張されたパフォーマンス」
サポートされているその他のオペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">8 ページの「サポートされているその他のオペレーティングシステム」

特定の DIMM 構成に対して拡張されたパフォーマンス

ソフトウェア Supplemental Release 2.0 により、チャンネル当たり 2 つの DIMM 構成で (プロセッサ当たり最大で 6 つの DIMM) 4GB 1333 MHz DIMM を使用する場合にパフォーマンスを拡張できるようになりました。ソフトウェア Supplemental Release 2.0 より前は、チャンネル当たり 2 つの DIMM 構成は 1066 MHz DIMM に限定されていました。

注 - このパフォーマンス拡張は 4GB 1333 MHz DIMM に限られ、ソフトウェア Supplemental Release 1.2 ではなく、ソフトウェア Supplemental Release 2.0 以降によりサポートされています。

サポートされているその他のオペレーティングシステム

この追加ソフトウェアリリースの時点で、Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーは次のオペレーティングシステムの新規エディションをサポートしています。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.8
- OpenSolaris 2009.06

次の情報については、Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Linux, VMware, Solaris, and OpenSolaris Operating Systems Installation Guide (820-5828) を参照してください。

- 上に一覧表示されたオペレーティングシステムのインストール手順
- サポートされているオペレーティングシステムの全リスト

注 – Solaris 10 または OpenSolaris オペレーティングシステムは、サーバーのディスクドライブにプリインストールされたオプションとして用意されています。プリインストールされた Solaris 10 または OpenSolaris オペレーティングシステムの構成手順については、Sun Fire X4170、X4270、X4275 サーバーインストールガイド (820-7804) を参照してください。

解決済みの問題

項目	
説明	リンク
BIOS の解決済み問題、説明、および入手可能な修正	<ul style="list-style-type: none">• 9 ページの「BIOS の解決済み問題」
ILOM の解決済み問題、説明、および入手可能な修正	<ul style="list-style-type: none">• 10 ページの「ILOM の解決済み問題」
Solaris の解決済み問題、説明、および入手可能な修正	<ul style="list-style-type: none">• 11 ページの「Solaris の解決済み問題」
Red Hat および SUSE Linux の解決済み問題、説明、入手可能な修正	<ul style="list-style-type: none">• 12 ページの「Red Hat と SUSE Linux の解決済み問題」

BIOS の解決済み問題

表 3 BIOS の解決済み問題

CR	説明
6840570	<p>BIOS によりセキュリティーの脆弱性が生じる場合があります</p> <p>問題: BIOS のセキュリティーの脆弱性によって、特権付きコードをローカル特権ユーザーが自由に実行できるようになり、CPU のシステム管理モードにアクセス可能になる場合があります。</p> <p>影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4170、X4270、X4275 サーバー• Supplemental Release 1.0、1.2、および 2.0 <p>入手可能な修正: この問題は、次の Supplemental Release で修正されています。サーバーに適した更新をインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none">• Supplemental Release 1.3 は、ILOM 2.0 を実行しているサーバー用です。• Supplemental Release 2.0.1 は、ILOM 3.0 を実行しているサーバー用です。

ILOM の解決済み問題

表 4 ILOM の解決済み問題

CR	説明
6850424	サーバーを ILOM 2.0 から ILOM 3.0.3.35 にアップグレードしたあとは、ILOM によりレポートされる電力測定値は低くなります。
	問題: サーバーを ILOM 2.0.x.x から ILOM 3.0.3.35 にアップグレードしたあとは、許容電力と使用可能電力の測定値は低くなります。測定値の減少量は、サーバーに取り付けられたメモリー DIMM の数により異なります。
	影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、X4275 サーバー • ILOM 3.0.3.35 • Supplemental Releases 1.0、1.2、および 2.0
	入手可能な修正: この問題は Supplemental Release 2.0.1 で修正されています。
6862764	事前起動を使用して SP ファームウェアをアップグレードした場合に、BIOS が壊れることがあります
	問題: .flash ILOM イメージを用いた事前起動を (uBoot) を使用して ILOM 回復アップグレードした場合、ホスト BIOS ソフトウェアが壊れて、ホストの電源が正常に入らないことがあります。
	影響を受けるソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • ILOM 3.0 • Supplemental Release 2.0。
	入手可能な修正: この問題はこのリリースで修正されています。Supplemental Release 2.0.1 をインストールします。

Solaris の解決済み問題

表 5 Solaris の解決済み問題

CR	説明
6821501	<p>シリアルコンソールを使用した場合に Jumpstart インストールがフリーズします</p> <p>問題: シリアルコンソールを使用して (/SP/コンソールにより) Solaris Jumpstart インストールを実行した場合、パッケージのインストール中にフリーズすることがあります。フリーズした場合は、インストールが完了しないため、ホストを再起動してください。</p> <p>影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4170、X4270、X4275 サーバー• Solaris 10 10/08、Solaris 10 05/09、OpenSolaris 2008.11、および OpenSolaris 2009.06• Supplemental Release 1.0、1.2、および 2.0 <p>入手可能な修正: この問題は次の Supplemental Release で修正されています。サーバーに適した更新をインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none">• Supplemental Release 1.3 は、ILOM 2.0 を実行しているサーバー用です。• Supplemental Release 2.0.1 は、ILOM 3.0 を実行しているサーバー用です。

Red Hat と SUSE Linux の解決済み問題

表 6 Red Hat と SUSE Linux の解決済み問題

CR	説明
6808230	<p>RAID PCIe カードを用いず、SATA ドライブを用いて ICH10 オンボード HBA を使用した場合、ストレージドライブの LED が正しく点灯しません</p> <p>問題: RAID PCIe カードのない (オンボード ICH10 SATA コントローラがある) Sun Fire X4170 サーバーでは、HDD スロット 1 から 3、および 5 から 7 のドライブ障害 LED と取り外し OK LED が正しく点灯しません。</p> <p>影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4170 サーバー• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11• Supplemental Release 1.0、1.2、および 2.0 <p>入手可能な修正: ドライバの修正が各 OS にバックポートされ、使用可能になりました。更新された AHCI ドライバが含まれる最新の Errata カーネルをインストールします。</p> <p>SLES11: このバグを記述または修正する SLE (S/D) 11 のカーネル更新がリリースされています。カーネルバージョンは 2.6.27.23-0.1.1 で、Novell ダウンロードサイトから入手できます。 次の URL からダウンロードできます。 http://www.novell.com/linux/security/advisories/2009_32_kernel.html</p> <p>RHEL5.3: 複数のセキュリティ問題とバグを修正する更新済みカーネルパッケージは、Red Hat Enterprise Linux 5 用が入手できるようになりました。カーネルバージョンは 2.6.18-128.1.14 で、Red Hat ダウンロードサイトから入手できます。ダウンロードリンクは次の URL にあります。 http://rhn.redhat.com/errata/RHSA-2009-1106.html</p>

既知の未解決問題

項目	
説明	リンク
ハードウェアの既知の問題、説明、および回避方法	• 14 ページの「ハードウェアの既知の問題」
BIOS の既知の問題、説明、および回避方法	• 16 ページの「BIOS の既知の問題」
ILOM の既知の問題、説明、および回避方法	• 17 ページの「ILOM の既知の問題」
VMware の既知の問題、説明、および回避方法	• 21 ページの「VMware の既知の問題」
Solaris および OpenSolaris の既知の問題、説明、および回避方法	• 25 ページの「Solaris および OpenSolaris の既知の問題」
Red Hat および SUSE Linux の既知の問題、説明、および回避方法	• 29 ページの「Red Hat および SUSE Linux の既知の問題」
Windows の既知の問題、説明、および回避方法	• 32 ページの「Windows の既知の問題」
Sun Installation Assistant の既知の問題、説明、および回避方法	• 36 ページの「Sun Installation Assistant の既知の問題」
ドキュメントの既知の問題、説明、および回避方法	• 38 ページの「ドキュメントの既知の問題」

ハードウェアの既知の問題

表 7 ハードウェアの既知の未解決問題

CR	説明
6795890	コンパクトフラッシュデバイスを使用した場合に USB デバイスが BIOS 起動順に表示されません
	問題: コンパクトフラッシュコネクタを使用してコンパクトフラッシュデバイスが接続されているときに、BIOS 起動リストで一部の USB デバイスにアクセスできないことがまれにあります。
	影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	回避方法: システムを再起動します。再起動しても解決しない場合は、サービスに連絡してください。
6790478 6800183	Sun Fire X4270 および X4275 サーバー上で LSI HBA でサポートされていない SATA 半導体テートドライブ
	問題: SATA 半導体ドライブ (SSD) を SG-XPCIE8SAS-I-2 Sun StorageTek 8-port Internal SAS PCIe LSI 308IE HBA とともに使用した場合、Sun Fire X4270 サーバーでも Sun Fire X4275 サーバーでもサポートされないため、予測できないシステム動作が生じることがあります。
	影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4270 および X4275 サーバー • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	回避方法: 回避方法はありません。この欠陥のパッチが入手可能かどうかを確認してください。

表 7 ハードウェアの既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6858722	<p data-bbox="494 236 1272 296">Active Riser を使用して接続された QLE2562 カードが接続されている場合、PCI-E エラーがレポートされます</p> <p data-bbox="494 314 548 340">問題:</p> <p data-bbox="494 348 1315 487">Sun QLogic QLE2562 ベースの 8 Gbps PCI-E デュアル FC ホストアダプタ (SG-XPCIE2FC-QF8-Z) が PCIe スロット 1、2、4、または 5 に配置されている場合、訂正可能 PCI-E エラーが連続してレポートされます。この場合、多数のエラーが受信されるため、パフォーマンスとオペレーティングシステムの安定性の問題が生じることがあります。</p> <p data-bbox="494 505 979 531">影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:</p> <ul data-bbox="494 539 1076 600" style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4270 および X4275 サーバー • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p data-bbox="494 618 594 644">回避方法:</p> <p data-bbox="494 652 1315 704">Sun QLE2562 ベースのカードは、PCIe スロット 0 または 3 だけに配置する必要があります。</p>

BIOS の既知の問題

表 8 BIOS の既知の問題

CR	説明
6716289	BIOS とシステムにより表示されるメモリー量が、実際に組み込まれたメモリーより少なくなります
	問題: BIOS スプラッシュ画面とメイン BIOS 設定メニューで、メモリー容量が実際に組み込まれている容量よりも 8M バイト少なく表示されます。
	影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	回避方法: 回避方法はありません。この欠陥のパッチが入手可能かどうかを確認してください。
6839587	未使用の CF カードが取り付けられたハードディスクドライブからシステムが起動しません
	未使用のコンパクトフラッシュ (CF) カードが工場では組み込まれているシステムでは、最初の再起動時に BIOS/POST のあとに空白の画面が表示され、システムがインストールされた OS を起動せず、ハングします。
	影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	回避方法: コンパクトフラッシュではなく目的のハードディスクドライブからシステムが起動するように、BIOS を使用して起動順を変更します。 起動順を変更するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. BIOS 設定メニューを表示し (BIOS POST で F12)、 「Boot」 タブに移動します。 2. 「Boot Device Priority」 を表示し、起動順を変更します。 3. F10 を押して新規設定を保存し、終了します。

ILOM の既知の問題

表 9 ILOM の既知の未解決問題

CR	説明
6779289	サイドバンドネットワークポートの共有を使用した場合に、SP とホスト OS 間のチップ内接続がサポートされません
	問題: サイドバンド (SB) ネットワークポートの共有を設定した場合、SP とホスト OS 間のチップ内接続はオンボードのホストギガビット Ethernet コントローラによりサポートされません。
	影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1
	回避方法: 送信元ターゲットと宛先ターゲット間のトラフィックの転送に、L2 ブリッジング/スイッチングの代わりに別のポートまたは経路を使用します。
6795975	続く ILOM セッションの KVMS インタフェースが機能しないことがあります
	問題: 同じサービスプロセッサに対して複数の Sun ILOM リモートコンソールセッションが開いている場合は、それ以上のセッションでキーボードによるインタフェースが機能しません。最初のセッションのキーボードによるインタフェースは影響を受けません。
	影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1
	回避方法: <ul style="list-style-type: none"> • 「Sun ILOM Remote Console」ダイアログをダブルクリックしてマウスをアクティブ化し、動かします。 または <ul style="list-style-type: none"> • Sun ILOM リモートコンソールのメニューバーで、「Devices」--> 「Mouse」を選択して、マウスを動かします。

表 9 ILOM の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6800702 6813782	<p data-bbox="415 244 1178 274">64 ビット JRE が Sun ILOM リモートコンソールの起動に失敗します</p> <p data-bbox="415 288 1178 491">問題: ストレージのリダイレクトを開始しようとする、64 ビット JRE を使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動するときに失敗することがあります。64 ビットシステムでは 64 ビット JRE がデフォルトであるため、32 ビット JRE もダウンロードする必要があります。64 ビット JRE を使用してストレージのリダイレクトを開始すると、「Unsupported platform (サポートされていないプラットフォーム)」エラーが表示されます。</p> <p data-bbox="415 505 1178 569">影響を受けるソフトウェア: • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1</p> <p data-bbox="415 583 1178 703">回避方法: 64 ビットシステムに 32 ビット JRE をインストールします。JRE は次の URL でダウンロードできます。 http://java.com/en/download/index.jsp</p>

表 9 ILOM の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6806444	<p>CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトするときに Windows クライアントで Sun ILOM リモートコンソールがハングすることがあります。</p> <p>問題: Windows クライアントを使用して Sun ILOM リモートコンソールから CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトした場合、Sun ILOM リモートコンソールが反応しないことがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • クライアントシステムにインストールされている Windows オペレーティングシステム • ILOM 2.0 以降および ILOM 3.0 以降 • Sun ILOM リモートコンソール • JDK 1.6.0_07 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: Windows クライアントで「Sun ILOM Remote Console」ウィンドウを閉じ、次の回避方法のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Linux または Solaris クライアントを使用し、Sun ILOM リモートコンソールを起動して、CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトします。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows、Solaris、または Linux シリアル端末あるいは SSH クライアントを使用し、ILOM 3.0 のストレージリダイレクションユーティリティを起動して、CD イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトします。 <p>注 - ストレージリダイレクションユーティリティは、ILOM 3.0 でのみ使用できるコマンドラインユーティリティです。その使用方法については、http://docs.sun.com/ の『ILOM 3.0 Documentation Collection』を参照してください。</p>

表 9 ILOM の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6839546	<p data-bbox="415 244 1125 296">ILOM 管理をサイドバンドとアウトオブバンド間で切り替えた場合に IPMI GUID が変化します</p> <p data-bbox="415 319 468 343">問題:</p> <p data-bbox="415 352 1168 543">ILOM 管理をサイドバンドとアウトオブバンド間で切り替えた場合に IPMI GUID が変化します。この予期しない動作が、システム管理 (Sun xVM Ops Center など) に IPMI GUID を使用するアプリケーション、またはサーバーのプロビジョニングに SMBIOS UUID を用いる配備に使用するアプリケーションに影響することがあります。Sun 以外のシステム管理ツールまたはサーバープロビジョニングツールを設定する前に、サイドバンドまたはアウトオブバンドの ILOM 設定を必ず入力してください。</p> <p data-bbox="415 565 696 590">影響を受けるソフトウェア:</p> <p data-bbox="415 598 972 623">Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1</p> <p data-bbox="415 645 515 670">回避方法:</p> <p data-bbox="415 678 1082 703">回避方法はあります。パッチを入手可能かどうかを確認します。</p>

VMware の既知の問題

表 10 VMware の既知の未解決問題

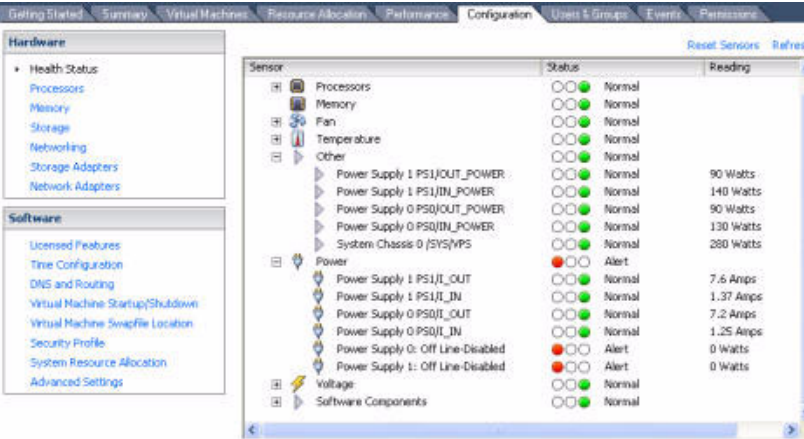
CR	説明
6779112	<p>VMware ヘルスステータス画面により紛らわしい電源装置のステータスがレポートされます</p> <p>問題: VMware Virtual Infrastructure Client の「Power (電源)」コンポーネントのヘルスステータス画面で、サーバー電源装置がオンラインで有効であっても、電源装置が Off-Line Disabled (オフライン無効)状態で 0 ワットであると表示されます。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • VMware ESX 3.5u4 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: VMware Virtual Infrastructure client のヘルスステータス画面が表示されているときに、使用可能なオプションのリストから「Other (その他)」コンポーネントをクリックすると、正しい電源装置のステータスが表示されます。</p>  <p>The screenshot shows the VMware Virtual Infrastructure Client interface. On the left, there is a navigation pane with 'Hardware' and 'Software' sections. The 'Hardware' section is expanded to show 'Health Status'. On the right, a table lists various sensors. The 'Power' section is expanded, showing several power supply sensors. One sensor, 'Power Supply 1: Off Line-Disabled', is highlighted with a red alert icon and shows a reading of 0 Watts. Other sensors show normal status and various power readings.</p>

表 10 VMware の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6793335	<p data-bbox="429 244 1240 300">Sun Fire X4170 サーバーに X4446A-Z I/O カードが取り付けられていると VMware が起動しません</p> <p data-bbox="429 319 1240 404">問題: X4446A-Z オプションカードが取り付けられている Sun Fire X4170 サーバー上で VMware ESX 3.5u4 が起動しません。</p> <p data-bbox="429 423 1240 548">影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul data-bbox="429 458 1240 548" style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170 サーバー • VMware ESX 3.5u4 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p data-bbox="429 567 1240 647">回避方法: noapic パラメータを /boot/grub/menu.lst のカーネル行の末尾に付加します。この欠陥に対応する BIOS 更新が今後入手可能になるか確認します。</p>

表 10 VMware の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6835570	<p data-bbox="511 244 1325 296">VMware ESXi 3.5 Update 4 をインストールしたあとに ローカルストレージドライブが表示されません</p> <p data-bbox="511 317 568 343">問題:</p> <p data-bbox="511 352 1325 461">Sun Fire X4170、X4270、または X4275 サーバーにローカルストレージドライブに接続された PCI-Express SAS LSI Controller (SG-XPICIE8SAS-I-Z) がある場合、VMware ESXi 3.5 Update 4 をインストールしたあとにこのローカルストレージドライブが表示されません。</p> <p data-bbox="511 479 1132 505">影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul data-bbox="511 513 1093 574" style="list-style-type: none"> • VMware ESXi 3.5u4 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p data-bbox="511 591 611 618">回避方法:</p> <p data-bbox="511 626 1325 678">ESXi をインストールしたあと、次の手順に従ってローカルストレージドライブをストレージインベントリに追加します。</p> <ol data-bbox="511 687 1325 1208" style="list-style-type: none"> 1. Virtual Infrastructure Client を使用して、選択したデータセンターに ESXi ホストを追加します。 2. 手順 1 で追加した ESXi ホストを選択して、「設定 (Configuration)」タブをクリックします。 3. ハードウェアボックス (ディスプレイの左上) で「ストレージ (Storage)」を選択します。 4. ディスプレイの右上で「ストレージの追加... (Add Storage...)」リンクをクリックします。 5. Disk/LUN Storage Type が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。 6. ローカルストレージドライブに対応する vmhba エントリを強調表示して、「次へ」をクリックします。 7. 「空き領域の使用 (Use free space)」を選択し、「次へ」をクリックします。 8. データストア名 (local_storage など) を作成して、「次へ」をクリックします。 9. 必要に応じて最大ファイルサイズを調整し、「次へ」をクリックします。 10. 提示されたディスクレイアウトを確認し、「完了」をクリックします。 <p data-bbox="511 1190 1122 1216">これでローカル VMFS データストアが使用可能になります。</p>

表 10 VMware の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6854502	<p data-bbox="432 244 1205 296">ESX 3.5u4 が Sun Fire X4170 サーバーにインストールした場合、Net2 NIC ポート (vmnic3) が無効になります</p> <p data-bbox="432 319 486 343">問題:</p> <p data-bbox="432 352 1233 404">VMware ESX 3.5u4 を Sun Fire X4170/X4270/X4275 サーバー にインストールすると、Net2 NIC ポートが無効化されます。</p> <p data-bbox="432 427 1212 451">影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul data-bbox="432 460 1015 552" style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、X427 サーバー • VMware ESX 3.5u4 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p data-bbox="432 569 529 593">回避方法:</p> <p data-bbox="432 602 1219 654">noapic パラメータを /boot/grub/menu.lst のカーネル行の末尾に付加します。この欠陥に対応する BIOS 更新が今後入手可能になるか確認します。</p>

Solaris および OpenSolaris の既知の問題

表 11 Solaris および OpenSolaris の既知の未解決問題

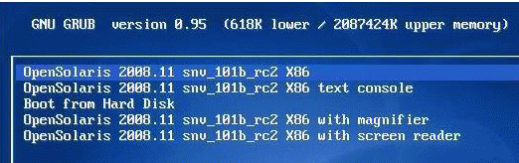
CR	説明
6764573	<p>VT-d が BIOS で有効の場合に KVMs リダイレクトが機能しません</p> <p>問題: Intel VT-d が有効な状態では、リモート KVMs によりリダイレクトされるキーボードとストレージに使用される USB デバイスが機能しません。リダイレクトされた DVD を使用したインストールが開始されることがあり、IOMMU 障害メッセージがコンソールに表示されたあとにハングします。リダイレクトされた USB キーボードもハングします。その他のデバイスも影響を受けることがあります。障害が発生すると、IOMMU 障害によって次のようなメッセージが表示されます。</p> <pre>WARNING: dmar0,0 generated a fault event when translating DMA read on address 0x0 for PCI(0, 26, 7), the reason is: The Read field in a page-table entry is Clear when DMA read (警告: PCI (0, 26, 7) のアドレス 0x0 の DMA 読み取りアドレスの解釈時に dmar0,0 が障害イベントを生成しました。理由: DMA 読み取りの際にページテーブルエントリの読み取りフィールドがクリアです) WARNING: /pci@0,0/pci1028,235@1a,7 (ehci0): Unrecoverable USB Hardware Error (警告: /pci@0,0/pci1028,235@1a,7 (ehci0): 回復不可能な USB ハードウェアエラー).</pre> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • OpenSolaris 2008.11 • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1 <p>回避方法: 次の手順のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BIOS で VT-d を無効にします。 システム起動時に、POST のあとに F2 を押して BIOS 設定を表示します。「Advanced (詳細)」タブを選択し、VT-d の設定を無効にします。 または • Solaris GRUB メニューで intel-iommu を無効にします。  <p>注 - GRUB メニュー編集のヘルプが各画面の下にあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インストール時に、次を追加することで GRUB メニューを変更します。 -B intel-iommu=no 2. GRUB メニューが表示されたら、編集するために e を入力して、該当する起動エントリにスクロールします。 3. 矢印キーで次のような行を選択します。 kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix (次のページへ続く)

表 11 Solaris および OpenSolaris の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6764573 (続き)	<p>回避方法 (続き)</p> <p>4. 編集するために e を押します。</p> <p>5. <code>-Bintel-iommu=no</code> をこの行に末尾に追加して、次のようにします。</p> <pre>kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix -Bintel-iommu=no</pre> <p>6. Enter を押し、b を押して起動します。 既存のオプションのリストにこの起動オプションを追加する場合、起動オプションの区切り文字はコンマです。 たとえば、次のように入力します。 <pre>kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix -Bconsole=ttya,intel-iommu=no</pre> <p>7. インストールが完了したら、上記の GRUB 編集手順を繰り返したあとに起動します。 起動して、<code>/platform/i86pc/kernel/drv/rootnex.conf</code> を編集し、次の行を追加します。 <pre>intel-iommu=no ;</pre> <p>8. インストールのあと、 <code>/platform/i86pc/kernel/drv/rootnex.conf</code>: を変更して、次を追加します。intel-iommu=no</p> <p>9. 次のように入力して起動アーカイブを再構築します。</p> <pre>bootadm update-archive</pre> </p></p>
6731637	<p>起動ディスクのサイズ制限</p> <p>問題: Solaris 10 05/09 は、サイズが 1T バイトを超えるディスクデバイスにはインストールされません。</p> <p>影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー • Solaris 10 05/09 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: この問題は Solaris の次のリリースで解決されます。1T バイト以下のブートデバイスに OS をインストールします。</p>

表 11 Solaris および OpenSolaris の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6801148	<p>StorageTek FC バスアダプタを RAID 拡張モジュールとともに使用すると OpenSolaris が起動時にハングします</p> <p>問題: 次のホストバスアダプタ (HBA) を使用した場合、OpenSolaris 2008.11 が起動時にハングします。 Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの場合、SG-XPCIE2FC-QF4 4 Gb Dual-Port FC-AL を次のいずれとともに使用したときにこの問題が発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE8SAS-E-Z 3 Gb 8-Port SAS External • SG-XPCIE8SAS-I-Z 3 Gb 8-Port SAS Internal • SGXPCIESAS-R-EXT-Z 3 Gb 8-Port SAS RAID External • SGXPCIESAS-R-INT-Z 3 Gb 8-Port SAS RAID Internal <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • OpenSolaris 2008.11 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: 上記の問題に記載されているベンダーの HBA デバイスを混在させません。</p>
6836590	<p>高速 USB 2.0 デバイスが正しく列挙されないことがあります</p> <p>問題: Solaris オペレーティングシステムを起動するときに USB 初期化の問題が発生して、高速デバイスが Solaris に検出されないことがまれにあります。</p> <p>影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー • Solaris 10 10/08 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: Solaris を再起動します。続けて再起動しても USB 列挙の問題が解決しない場合は、この既知の問題が原因ではありません。サービスに連絡してください。</p>

表 11 Solaris および OpenSolaris の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6836594	<p data-bbox="432 230 1242 256">Solaris のあとに BIOS でも DVD ドライブが検出されないことがあります</p> <p data-bbox="432 265 1242 291">問題:</p> <p data-bbox="432 300 1242 439">Solaris オペレーティングシステムを起動するときに USB 初期化の問題が発生して、システムの内部 DVD ドライブとフロントパネルの USB ポートに接続されているデバイスが、BIOS からは見えていても Solaris に検出されないことがまれにあります。これが起こると、それ以後のウォームリブートで BIOS と Solaris の両方から検出されません。</p> <p data-bbox="432 447 1242 473">影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア</p> <ul data-bbox="432 482 1242 578" style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170 および X4270 サーバー • Solaris 10 10/08 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p data-bbox="432 586 1242 612">回避方法:</p> <p data-bbox="432 621 1242 664">シャーシの主電源を入れ直します。続けて電源を入れ直しても解決しない場合は、この既知の問題が原因ではありません。</p>

Red Hat および SUSE Linux の既知の問題

表 12 Red Hat および SUSE Linux の既知の未解決問題

CR	説明
6771120	RHEL 5.3 を使用すると良性のエラーが表示されます
	<p>問題: RHEL 5.3 を使用した場合に、起動ログに良性のエラーが表示されることがあります。これらの良性のメッセージは、Aspeed ビデオデバイスの PCI デバイスプローブに関係しています。</p> <p>良性のエラーメッセージの例は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PCI: Ignore bogus resource 6 [0:0] of 0000:20:05.0 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • PCI: Ignore bogus resource 6 [0:0] of 0000:35:05.0
	<p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	<p>回避方法: これらのエラーメッセージは良性で、システムの安定性やパフォーマンスに影響しません。</p>
6800672	RHEL 5.3 では ixgbe (1.3.53) ドライバがサポートされません
	<p>問題: Large Receive Offload の設定が無効でない場合、Intel の最新の ixgbe (1.3.53) ドライバが RHEL 5.3 で PCI Express Single (1106A-Z) または Dual (1108A-Z または 1107A-Z) 10G ビット Ethernet に対してコンパイルできません。</p>
	<p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	<p>回避方法: 前の ixgbe ドライバ (1.3.47) を使用してコンパイルします。</p>

表 12 Red Hat および SUSE Linux の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6801897	<p>RHEL 4.7 ipmi_si ドライバが読み込まれません。IPMI サービスの開始が失敗します</p> <p>問題: IPMI サービスの開始が失敗します。RHEL 4.7 ipmi_si ドライバがデフォルトパラメータでは読み込まれません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. /etc/modprobe.conf を編集します 2. 次の行を追加してデフォルト ipmi_si ドライバパラメータを変更します。 <code>options ipmi_si type="kcs" ports=0xCA2 regspacings="4"</code> 3. 変更を保存して、編集します。 4. 次のコマンドでサービスを停止します。 <code>/etc/init.d/ipmi stop service ipmi stop</code> 5. 次のコマンドでサービスを開始します。 <code>/etc/init.d/ipmi start service ipmi start</code>
6816210	<p>Intel の PCI Express 10Gb Ethernet カードが一部の RHEL5.3 Inbox ixgbe ドライバでは機能しません</p> <p>問題: RHEL5.3 inbox ixgbe ドライバと Intel の PCI Express 10Gb Ethernet カード (固定トランシーバ付き) I/O ドライバの使用に問題があります。RHEL 5.3 ixgbe ドライバは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1.3.18-k4 • 1.3.47-NAPI • 1.3.56.5 <p>Intel I/O デバイスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Intel 1-port Fiber XFP SR (Oplink) 用: X1106A-Z (PCIe) • Intel 2-port Fiber XFP SR (Oplink) 用: X1108A-Z (EM) および X1107A-Z (PCIe) <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.3 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: これらのドライバと RHEL 5.3 を使用するには、ドライバを更新する必要があります。</p>

表 12 Red Hat および SUSE Linux の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6830785	<p data-bbox="478 244 1326 300">IPv4 TX チェックサムオフロードを有効にすると、igb.ko ドライバを使用する SLES XEN Host (Dom 0) が XEN Guest (Dom U) パケットを破壊します</p> <p data-bbox="478 317 1326 597">問題: 次の条件では、物理インタフェースからの送受信中に XEN Guest (Dom U) ネットワークトラフィックが XEN Host (Dom 0) によって壊れます。 1. XEN Host (Dom 0) が SLES 10 SP2 オペレーティングシステムです。 2. inbox SLES 10 SP2 Intel igb.ko ドライバが XEN Host (Dom 0) で使用されています。 3. IPv4 TX チェックサムが XEN Guest (Dom U) で有効です。 4. XEN Guest (Dom U) が最適化され、準仮想化された NIC ドライバを使用しています。</p> <p data-bbox="478 614 1326 708">影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 Service Pack 2 • Supplemental Release 1.0、1.2、および 2.0</p> <p data-bbox="478 725 1326 980">回避方法: ドライバの新しいバージョンは、この問題を解決するために SLES 10 SP2 用にコンパイルされています。最新のドライババージョンにアップグレードします。この問題は Novell SLES サポートが、次の URL で入手可能な Technical Information Document (TID) で説明しています。 http://www.novell.com/support/php/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&externalId=7003448&sliceId=1&docTypeID=DT_TID_1_1&dialogID=39728435&stateId=0%200%2060594008 この問題を修正する最新の igb ドライバについては、TID を参照してください。</p>

Windows の既知の問題

表 13 Windows の既知の未解決問題

CR	説明
6756232	コンパクトフラッシュカードが Windows セットアップユーティリティに検出されないことがあります
	<p>問題:</p> <p>Windows Server 2003 セットアップユーティリティにより、起動順で最初に見つかったディスクにシステム起動ファイルがコピーされます。Windows では、ATA クラスデバイスですが USB バスを経由して接続されたデバイスとしてコンパクトフラッシュ (CF) デバイスが検出されます。USB 経由で接続されたデバイスは、システム起動デバイスとして Windows サーバー用には Microsoft によりサポートされていません。</p>
	<p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	<p>回避方法:</p> <p>CF カードは、起動デバイス優先度リストで対象ディスクより優先度を低くする必要があります。詳細については、『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』(820-5830)の「BIOS」の項を参照してください。</p>
6783538	Windows デバイスマネージャで Infiniband Host Channel Adapter が無効になっていると、ブルーエラー画面が表示されます
	<p>問題:</p> <p>X4237A Infiniband Host Channel Adapter カードが Windows デバイスマネージャで無効になっている場合、「Bug Check 0x122 - General WHEA Error (バグチェック 0x122 - 一般的な WHEA エラー)」とブルースクリーンに表示されて Windows Server 2008 が停止します。</p>
	<p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1
	<p>回避方法:</p> <p>Windows デバイスマネージャで X4237A カードを無効にしないでください。このカードが無効になっているために「Bug Check 0x122 (バグチェック 0x122)」とブルースクリーンが表示された場合は、ホストシステムを再起動して復旧します。再起動すると X4237A カードは有効に設定されます。この欠陥のバッチが入手可能かどうかを確認してください。</p>

表 13 Windows の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6803931	<p data-bbox="492 234 1325 296">インストールのあと、Windows デバイス マネージャのデバイスツリーに黄色の感嘆符が付いたデバイスが表示されることがあります</p> <p data-bbox="492 296 1325 546">問題: Sun Fire X4275 サーバーに Windows Server 2003 をインストールしたあと、Windows デバイス マネージャのデバイスツリーに黄色の感嘆符 (黄色の警告マーク) が付いたデバイスが表示されることがありますこのデバイスはデバイスツリーのその他のデバイスに表示され、デバイス名は「LSILOGIC SASX28 A.1 SCSI Enclosure Device」です。この問題が発生してもシステムの機能に影響はありません。デバイス マネージャに黄色の警告マークが表示されるだけです。この問題は Windows Server 2008 では起こりません。</p> <p data-bbox="492 546 1325 690">影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア</p> <ul data-bbox="492 591 1325 690" style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4275 Server • Windows Server 2003 • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1 <p data-bbox="492 690 1325 730">回避方法:</p> <p data-bbox="492 730 1325 793">問題を解決するには、Sun Fire X4275 サーバーの Tools and Drivers DVD をダウンロードして、インストールします。</p> <p data-bbox="492 793 1325 855">Sun Fire X4275 の Tools and Drivers DVD をダウンロードするには、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="492 855 1325 1328" style="list-style-type: none"> 1. http://www.sun.com に移動し、「ダウンロードと試用 (Downloads & Trials)」をクリックして、ドロップダウンリストから「トップダウンロード (Top Downloads)」を選択します。 2. Sun ダウンロードページで「Downloads A-Z (ダウンロード A-Z)」タブをクリックします。 3. アルファベット順のリストから Sun Fire X4275 サーバーの Tools and Drivers DVD を探して、クリックします。 4. Tools and Drivers パッケージをダウンロードして、選択したインストール方法に応じ、最新の Tools and Drivers CD イメージまたは最新の Sun Installation Assistant CD イメージを見つけます。 5. LSI SAS x28 Expander のドライバをインストールします (ファイル <code>lsinodrv.inf</code>)。このドライバは、32 ビットの場合は <code>Windows\w2k3\i386\si</code>、64 ビットの場合は <code>Windows\w2k3\amd64\si</code> の「Tools and Drivers DVD」にあります。新しいドライバをインストールすると、LSI デバイスから黄色い警告マークが消え、Windows デバイス マネージャの「システム デバイス」に LSI SAS x28 Expander という新規名前が表示されます。

表 13 Windows の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6820942	<p data-bbox="418 244 1228 296">QLogic PCI-E カードが組み込まれているローカルディスクに Windows Server 2008 64 ビット がインストールされません</p> <p data-bbox="418 317 468 340">問題:</p> <p data-bbox="418 352 1228 458">4 Gbps PCI-E Dual FC Host Adapter (SG-XPCIE2FC-QF4) を含むシステム上の内蔵 SAS/SATA ディスクまたはアレイに Windows Server 2008 をインストールする場合、外部ストレージエリアネットワーク (SAN) にオプションカードが接続されているとき、システムがクラッシュして、再起動することがあります。</p> <p data-bbox="418 470 1228 522">注 - オペレーティングシステムの対象が外部 SAN の場合、これは問題となりません。</p> <p data-bbox="418 543 1035 565">影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul data-bbox="418 578 996 630" style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 (64 ビット) • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1 <p data-bbox="418 651 514 673">回避方法:</p> <p data-bbox="418 685 1213 765">ローカルディスクにオペレーティングシステムをインストールしたあとに、SAN アレイを接続します。この欠陥のパッチが入手可能かどうかを確認してください。この問題は Microsoft の Service Pack 2 で修正されます。</p>
6820950	<p data-bbox="418 784 1228 864">LSI MegaRaid Storage Manager を Intel Network Connections Software とともに Microsoft Windows Server 2003 (x64) にインストールすると、正しく機能しません</p> <p data-bbox="418 885 468 907">問題:</p> <p data-bbox="418 920 1228 999">MegaRaid Storage Manager および Intel Network Connections (NIC) Teaming をインストールしたあと、ランモニターサービスが予期せず停止し、起動できません。</p> <p data-bbox="418 1020 1035 1043">影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul data-bbox="418 1055 996 1107" style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 (x64 サーバーの場合) • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1 <p data-bbox="418 1128 514 1150">回避方法:</p> <p data-bbox="418 1163 1228 1215">LSI Storage Manager ソフトウェアが必要な場合は、NIC Teaming ソフトウェアをインストールしないでください。</p>

表 13 Windows の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6863766	<p>Tools & Drivers CD から作成したフロッピディスク、または Tools & Drivers CD 上のフロッピディスクイメージ (QLogic64.img) を使用して、QLogic Fiber Channel HBA によりファイバーチャネルアレイに Windows Server 2003 64 ビットをインストールすると失敗します</p> <p>問題: Tools & Drivers CD から作成したフロッピディスク、または Tools & Drivers CD 上のフロッピディスクイメージ QLogic64.img フロッピイメージを使用して、QLogic Fiber Channel HBA によりファイバーチャネルアレイに Windows Server 2003 64 ビットをインストールすると、設定プロセスの後半に「ブルースクリーン」が表示されて、インストールが失敗します。Tools & Drivers CD 上にある SAN ドライバセットからの 64 ビット QLogic 起動にファイルの不一致があるためにインストールが失敗した場合、インストールプロセスの終わり近くで「Bug Check 0x07B (バグチェック 0x07B)」となります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 64 ビット • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: QLogic に接続されたファイバチャネルアレイへの Windows 2003 64 ビットのインストール用の修正済み QLogic ドライバセットである Boot from SAN for STOR Miniport 64-bit Driver (x64) が次の Web サイトからダウンロードできます。 http://driverdownloads.qlogic.com/QLogicDriverDownloads_UI/Sun_Details.aspx?productid=928&OSTYPE=Window&oemid=124</p> <p>Tools & Drivers CD ソフトウェアの更新で修正を入手可能かどうかを確認します。</p>

Sun Installation Assistant の既知の問題

表 14 Sun Installation Assistant の既知の未解決問題

CR	説明
6798618	<p>Windows 2008 32K をインストールした場合に SIA 2.2.6.8 によりブルースクリーンが表示されます</p> <p>問題: Sun Installation Assistant (SIA) を使用して Sun Fire X4270 または X4275 サーバーに Windows 2008 をインストールする場合、自動 SIA 更新を選択解除すると、インストールが失敗してバグチェックとブルースクリーンが表示されることがあります。</p> <p>影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4270 および X4275 サーバー• Windows Server 2008• Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、および 2.0.1 <p>回避方法: この問題には次のいずれかを回避方法として使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• SIA のインストールを再度開始し、オプションが表示されたら自動 SIA 更新を受け入れます。• BIOS で「ACHI mode」を無効にして、インストールを再度開始するには、次の手順に従います。<ol style="list-style-type: none">1. 「Advanced」タブで、「On-board SATA Configuration」を選択します。2. 「Configure SATA#1 as」で、Enter を押して選択ボックスを表示し、「IDE」を選択します。3. F10 を押してこれらの変更を保存して、終了します。4. インストールメディアから直接 Windows 2008 をインストールします。

表 14 Sun Installation Assistant の既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6805366	<p>SIA を使用して Windows Server 2003 を RAID にインストールした場合、AHCI デバイスドライバがインストールされないことがあります</p> <p>問題: LSI または Sun StorageTek Raid HBA にインストールする場合、Windows 2003 のインストールで、AHCI ドライバが SIA により自動的にインストールされないことがあります。SIA により AHCI デバイスドライバはディスク (インストール対象) にコピーされますが、Windows デバイス マネージャを使用してこのドライバをインストールしなければならない場合があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1 <p>回避方法: この問題には次のいずれかを回避方法として使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスク (インストール対象) にコピーされた AHCI デバイスドライバを、Windows デバイス マネージャを使用してインストールします。デバイス マネージャを使用してデバイスドライバを更新またはインストールする手順については、Windows デバイス マネージャのドキュメントを参照してください。 • SIA のインストールを再度開始し、オプションが表示されたら自動 SIA 更新を受け入れます。 • このプラットフォーム用の最新の SIA CD を http://www.sun.com からダウンロードし、インストールを再度開始します。
6835303	<p>Red Hat オペレーティングシステムの ISO イメージを NFS を使用してインストールする場合に、SIA インストールが正しく機能しません</p> <p>問題: ネットワークファイルシステム (NFS) サーバーを使用してエクスポートされた ISO イメージから Red Hat オペレーティングシステムをインストールする場合は、Red Hat インストールのプロファイルがインストールされたシステムに送られません。この結果、次の動作が生じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Anaconda が、インストールタイプ (デスクトップ、クライアント、サーバー、または最小) の入力をユーザーに求めます。 • 個々のパッケージのインストールタイプに基づく事前選択が行われず、ユーザーが手動で選択する必要があります。 <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.x および 5.x • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, および 2.0.1 <p>回避方法: SIA を使用して Red Hat オペレーティングシステムをインストールする場合は、NFS を使用してエクスポートされた ISO イメージを使用しません。</p>

ドキュメントの既知の問題

表 15 ドキュメントの既知の未解決問題

CR	説明
6779289	<p data-bbox="418 326 1235 352">プラットフォーム特定の ILOM サイドバンド管理機能の内容が欠落しています</p> <p data-bbox="418 369 471 395">問題:</p> <p data-bbox="418 404 1220 482">『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー』(820-7816)の「ILOM サイドバンド管理」から一部の特別な考慮事項が抜けています。</p> <p data-bbox="418 499 582 526">修正済みの内容:</p> <p data-bbox="418 534 785 560">サイドバンド管理の特別な考慮事項:</p> <p data-bbox="418 569 1213 621">サイドバンド管理を ILOM で有効にした場合、次の状況が発生することがあります。</p> <ul data-bbox="418 630 1235 925" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="418 630 1235 777">• SP とホストオペレーティングシステム間のチップ内接続が、オンボードのホストギガビット Ethernet コントローラではサポートされないことがあります。この状況が発生した場合は、送信元ターゲットと宛先ターゲット間のトラフィックの転送に、L2 ブリッジング/スイッチングの代わりに別のポートまたは経路を使用します。 <li data-bbox="418 786 1235 925">• サーバーホストの電源を入れ直すと、サイドバンド管理用に設定されている、サーバーのギガビット Ethernet ポート (NET 0、1、2、3) で、ネットワーク接続が短時間中断することがあります。この状況が発生した場合は、隣接するスイッチ/ブリッジのポートをホストポートとして設定します。 <p data-bbox="418 933 1235 1012">注-ポートがスイッチポートとして設定されていて、Spanning Tree Protocol (STP) に参加している場合、スパニングツリーの再計算のため、機能停止が長引くことがあります。</p>

表 15 ドキュメントの既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6841295	<p>LES11、および VMware ESX または ESXi 4.0 では新しいインストール手順が必要です</p> <p>問題: 『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Linux, VMware, Solaris, and OpenSolaris Operating Systems Guide』(820-5828) には、サポートされている次のオペレーティングシステムエディションのインストール手順が記載されていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • VMware ESX or ESXi 4.0 <p>回避方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> • SLES 11 の詳細については、『SUSE Linux Enterprise Server 11 Deployment Guide』に記載されているインストール手順を参照してください。このガイドは、次の Novell Documentation Web サイトからダウンロードできます。 http://www.novell.com/documentation/sles11/index.html • VMware ESX または ESXi 4.0 のインストールについては、次の VMware ESX または ESXi のドキュメントを参照してください。 http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html <p>Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーにこれらのオペレーティングシステムをインストールする方法については、更新された内容が『Sun Fire X4170, X4270, および X4275 サーバー Linux, VMware, および Solaris オペレーティングシステム・インストールガイド』の次の版に記載されます。</p>
6840674	<p>SAS Expander Card センサーが記載されていません</p> <p>問題: /SYS/SAS_EXP/PRSNT センサーが記載されていません。このセンサーは、SAS Expander Card が取り付けられているかどうかを検出します。このカードは、ディスクドライブバックプレーンに接続されます。</p> <p>修正済みの内容: 次の内容が『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Fire X4170, X4270, および X4275 サーバー』に追加されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • センサー名: /SYS/SAS_EXP/PRSNT • センサーのタイプ: エンティティプレゼンス • 説明: SAS Expander Card プレゼントモニター <p>注 - このカードは、ディスクバックプレーンとそれに接続されている SAS ケーブルに接続されます。</p> <p>注 - このセンサーがサポートされるのは、Sun Fire X4275 サーバーのみです。</p>

表 15 ドキュメントの既知の未解決問題 (続き)

CR	説明
6851878	<p data-bbox="416 234 939 265">サーバーの周囲温度センサーの内容が抜けています</p> <p data-bbox="416 279 472 310">問題:</p> <p data-bbox="416 317 1229 456">『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー』(820-7816)および『Sun Integrated Lights Out Manager 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー』(820-7959)には、/SYS/MB/T_AMB センサーと /SYS/T_AMB センサーの位置が記載されていません。</p> <p data-bbox="416 470 582 501">修正済みの内容:</p> <ul data-bbox="416 508 1229 593" style="list-style-type: none"> • /SYS/MB/T_AMB: マザーボードの周囲温度センサーは、マザーボード前端のストレージドライブの真下にあります。 • /SYS/T_AMB: システムの周囲温度センサーは、ファンボードの裏面にあります。